

城東区の 都市景観資源紹介



城東区の都市景観資源

大阪市では、城東区の都市景観資源の発掘のため、城東区ゆめ～まち～未来会議との連携により「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成24年3月30日に10件を都市景観資源に登録しました。

1. 城北川新光製糖の舢舨^{はしけ}



◆所在地

城東区今福西6丁目8番

◆概要

新光製糖は、精製糖、氷砂糖、液糖の製造販売等を業種とする会社である。昭和19年(1944年)に城東区鴨野町に設立、昭和27年(1952年)に今福工場を建設、昭和29年(1954年)に本社を今福に構えた。かつて“水の都”といわれた大阪に本社を置く新光製糖では、地の利を活かしてCO²排出量の少ない、舢舨輸送を50年以上続けている。

2. 皇大神宮



◆所在地

城東区今福南2丁目12番31号

◆概要

皇大神宮は、天照皇大神を祭神とし、神宮様と称して広く崇敬され栄えてきた由緒ある神社である。現在の社殿は、享保2年(1742年)、天保13年(1842年)、明治13年(1880年)に改修され、昭和7年(1932年)に大阪城の設計を手がけた古川重春氏の設計により改築された、桃山様式の風雅な流造の社殿である。平安時代末期に摂津国今福村が開発された時、同地に天照皇大神をお祀りしたのが始まりと伝えられている。

3. 野崎街道の家並み



◆所在地

城東区蒲生4丁目1～3番

◆概要

野崎街道は、通称「野崎の観音さん」で知られる曹洞宗福聚山慈眼寺(大東市野崎)へ参詣するルートである。野崎参りは17世紀後半の延宝(1673～1681年)・元禄(1688～1704年)に始まり、明治の末頃まで、大坂の町や近郷から行楽を兼ねてお参りをする人々で賑わった。今でも旧街道沿いに、古い伝統的な家屋が点在しており、かつての街道筋だった面影が残っている。

4. 諏訪2丁目の大いちょう



◆所在地

城東区諏訪2丁目11番8号

◆概要

大阪市指定<昭和43年(1968年)10月1日>の保存樹で、高さ16.5m、幹まわり3.3mに達する。宅地内にあるが、樹高が高いことから遠くから眺められ、落葉の季節には、道一面に黄色いじゅうたんが敷きつめられたように美しくなる。幹まわりから見ても、かなりの樹齢であると推察され、この地域のシンボリック存在である。

5. 関目2丁目・4丁目の楠並木



◆所在地

城東区関目2丁目8番、9番、関目4丁目2番、10番

◆概要

関目2丁目、4丁目の道路にある楠並木。100m強の「クスノキ並木」で、高さ約10m、枝振りも立派で手入れもよく行き届いた「癒しの空間」となっている。真夏の昼下がりがりや軽やかなそよ風に触れる事の出来る、貴重な緑陰空間である。